

◆日根野聖子 選

小西昭夫先生の、俳句とコメントの作品「チンピラ」シリーズの第七弾です。

小西先生は、毎年五月に俳句とアートの作品展「遊五人展」を開催されています。その会期中に、展示会場で朗読会を開かれ、「チンピラ」が披露されます。アート作品の鑑賞と同じく朗読会を楽しみにしておられる方も多いのですが、今年は、新型コロナの感染状況を鑑みて、朗読会は中止となりました。

今年、紹介されるはずであった最新作です。

「チンピラⅦ」

小西昭夫

季重なり嬉し鯉と焼酎と

鯉も焼酎も夏の季語であります。

早起きが日課となりぬ夏休み

早起きは苦手なのですが、孫がやって来ました。

夏休みとは忙しき日々のこと

昔は少しは休めたのですが、子どもたちが帰省しました。

不要不急の蟻たちの急ぐこと

コロナが収まって、早く自由に外出したいものです。

プラトンとアリストテレスとぼくの夏

ぼくもまるで立派な哲学者のようです。

たたたたたたたたたたた小鳥来る

秋が来ました。

桃の実の桃のかたちをしておりぬ

これは驚くべきことでもあります。

小判草小判の色になりけり

これが使えたらいいのですが…。

煮て食うかそれとも焼くか鰯雲

残念ながら、煮ても焼いても食えないのです。

葡萄食う女裸にするように

人前では言いにくい句であります。

残すべき菜まで間引いてしまいけり

たまに仕事をすると碌なことはありません。

妻はまず秋茄子に箸を出す

秋茄子は嫁に食わすなと言いますが…。

にわとりに声かけ勤労感謝の日

今日も元気に働いてくれます。

まだ口を割らぬ通草でありにけり

警察の取り調べではありません。

注文の柿は熟柿で届きたり

ぼくは硬いのが好きです。

どどどどどどどどどどどど秋の暮

秋が終わります。

冬立つや早寝早起き早とちり

冬になると何故かせつかりになります。

たたたたたたたたたたた小鳥来る

秋が来ました。

桃の実の桃のかたちをしておりぬ

これは驚くべきことであります。

小判草小判の色になりけり

これが使えたらいいのですが…。

煮て食うかそれとも焼くか鱸雲

残念ながら、煮ても焼いても食えないのです。

葡萄食う女裸にするように

人前では言いにくい句であります。

残すべき菜まで間引いてしまいけり

たまに仕事をすると碌なことはありません。

妻はまず秋茄子に箸を出す

秋茄子は嫁に食わすなと言いますが…。

にわとりに声かけ勤労感謝の日

今日も元気に働いてくれます。

まだ口を割らぬ通草でありけり

警察の取り調べではありません。

注文の柿は熟柿で届きたり

ぼくは硬いのが好きです。

どどどどどどどどどどど秋の暮

秋が終わります。

冬立つや早寝早起き早とちり

冬になると何故かせつかりになります。

ご近所に少し遅れて落葉掃く

ご近所が外の掃除を始めるとプレッシャーがかかります。

坊ちゃんと紅まどんなど道後駅

松山のマドンナは今も大活躍です。

庭に撒く猫よけシャット漱石忌

ぼくは夏目漱石にはなれません。

梅の花の下ににわとり八羽

一体何が言いたいのでしょう。

わが家には煙突がないクリスマス

なぜサンタさんは来ないのでしょう。

着膨れを一枚一枚脱いで寝る

冬でも昼と夜は違います。

パンジーとロダンの類似点述べよ

何と哲学的な句でしょう。

パンジーとロダンの相違点述べよ

こう変えてみても難問ですね。

にんにくでコロナ退治はできまいか

ドラキュラならやっつけられるのですが…。

最大多数の最大幸福チューリップ

何事も量が大切です。

根切虫見事に仕事してくれし

庭に植えた花の苗の顛末です。

チンピラがワクチンを待つ五月かな

結論はチンピラも人間ということです。